



## 宮司プレス 第二百十号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和六年 二月二十日

◇宮司の柴田です。 今月は、一年でもっとも

短い月です。 今年は、閏年ですが、それでも、

二十九日しかありません。 しかしながら、一  
年のなかで、これほど、大切な祭典のオンパレ  
ードの月はないと思います。 裏面に、写真で

祭典の様子を紹介していますので、御参照くだ  
さいませ。

◇過日の十七日午後四時より、祈年祭を

斎行しました。 正服という衣冠、位袍(神

職の身分によって色が違います)を着装し、

御奉仕上げました。 大祭祀による神事で

すので、私は、祭典中、神様のおそば近く  
に、控えていなくてはなりません。 これ

を、祇候といい、その控える場所を祇候座

といいます。 私は、その祇候座で、神様

に、お供え物を奉っている間(これを献饌

といいます)に、龍笛で、雅楽を奏でまし

た。 この祈年祭は、春の農業耕作始めに

あたり、五穀豊穰を祈るお祭りです、「とし

ごいのまつり」とも呼ばれます。「とし」

とは稲の美称であり、「ごい」は祈りや願

いを意味し、命の源、生活の根源でもあ

る「お米」を始めとする五穀の豊かな稔り

をお祈り申し上げる、一年を通じて、とて

も重要な、重儀の祭典です。

◇平成二十八年十月に発行した宮司プレ

ス百十八号にも詳述していますが、中国

の最古の王朝であった「夏」という国では、

一年の「年」のことを「載」と称してしまし

た。 次の王朝である「商」という国は、

「祀」と、称しました。 実は、商という国

は、占いや神事を重んじる国家でありました。

戦場に赴く軍隊の先頭にも、「巫女」という

不思議な霊力を持った女性を配し、災厄を清

めながら行進したそうです。 現在、私共が

使っている「年」は、次の王朝である、「周」

という国から使われるようになりました。

日々、月々、季節の移り変わりその歳月の歩

みが、まさに、神様からの御加護を「載」い

て、その感謝の祭事である「祀、祭祀」と共

にあつたのです。 祈り、感謝、そして御加

護を頂く、その一つのサイクルが、まさに、

「一年」なのです。 そして、この「年」と

いう読みは、「稔」、豊穰の「みのり」にも

通じるのです。 春のお祭りである、「祈年

祭」で、五穀の豊穰を祈り、そして、秋の収

穫を迎えるための、季節ごとの様々のお祭り

を厳に執行し、秋の例祭、新穀を感謝する

新嘗祭を迎えるわけです。

◇詩人の坂村真民さんの詩に次のようなもの  
があります。

「守られている ありがたさよ  
生かされている うれしさよ 朝に夕に 手  
を合わせよう 感謝のまことを ささげよう」  
神様に、「守られているありがたさよ」と感謝  
をささげ、秋の稔りをあらかじめお祝いをし、

神様とのお約束を反故にしないよう努力を  
続けるのです。これを、「予祝」といいま  
す。そして、その過程においては、決して

順風満帆な日々が続くとも限りません。

いかなる試練があろうとも、きつと、神様が  
守りくださることを信じて、「生かされている  
うれしさよ」と、前向きに生活をする、そして、  
感謝の喜びの日を迎えるわけです。これこ  
そが、「朝に夕に手を合わせよう」という、日  
本人の勇気というべき「神信心」ではないで  
しょうか。

◇明治天皇様は、御製(ぎよせい)に、

「わが国は 神のすえなり 神祭る

昔のてぶり わするなよゆめ」

と、お詠みになられました。襟を正して、

遺漏なく、「感謝のまことを ささげよう」と

いう思いを新たにさせられた、祭典厳修の  
日々でした。御自愛をお祈り申し上げます。

◇二月の祭典行事(予定も含む)

▼月次祭

◆本宮 \*二月一日、十五日

◆貴布祢神社 二月一日

▼節分祭 \*二月三日

◆福引大会、福豆腐餅おわかち、花手水

▼建国祭 \*二月十一日

◆本宮 紀元祭 午前十一時

◆下関市建国祭 午後 二時二十分



▼福浦稻荷神社初午祭 \*二月十二日

▼祈年祭

◆本宮

\*二月 十七日



◆六連島八幡宮

\*二月二十五日

◆田の首八幡宮

\*二月二十七日

▼朝粥会 \*二月二十一日

▼柴田家祖霊祭 \*二月二十四日

◇二月の宮司動静(予定も含む)

▼神社関係団体

◆早起会参拝 \*二月一日

◆維蘇志会節分祭設営準備作業

\*二月二日

◆敬神婦人会役員新年参拝

\*二月三日

◆維蘇志会役員会 \*二月二十一日

◆神道会世話人会 \*二月二十三日

\*二月二十一日

▼神社庁関係

◆下関支部幹事会 \*二月六日

◆同和問題宗教者連帯会議研修会

\*二月七日

◆下関市建国祭打合 \*二月八日

◆神社庁教化部代表者会議(ズーム)

\*二月九日

◆神社庁役員会 \*二月十二日

◆神社庁支部長事務局局長会議 \*二月十三日

◆神社庁例祭 \*二月十二日

◆山口県青年神職会主催地鎮祭セミナー

講師として参加 \*二月二十六日

◆祭典後講話研修会参加 \*二月二十八日

▼自治会、学校関係、その他

◆しものせき木鶏クラブ \*二月一日

◆西山小学校運営協議会 \*二月九日

◆西山小感謝の集い \*二月十六日

◆下関市中央倫理法人会モーニングセミナー

\*二月二十一日